

算数に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

- ◇正答率が全国平均と同程度か、やや上回っている問題が多い。
- ◆数と計算の領域では、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題」に課題が見られた。
- ◆図形の領域では、「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題」に課題が見られた。
- ◆変化と関係の領域では、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」に課題が見られた。

指導改善のポイント

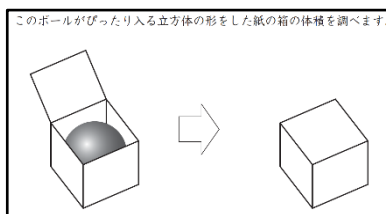
本年度調査も、実生活を想定した問題や、長文の問題が多く出題された。問題場面を理解したり、問われていることが何なのかを理解する「読解力」を鍛えるためにも、普段の授業で扱う問題を工夫して慣れさせたい。

数と計算

○問題文にある「こはるさんが持っている折り紙より28枚少ない」の言葉から「減法」と判断した誤答が目立った。問題場面を図に表し、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。授業で扱う問題では、あえてイラストを見せないようにしたり、見通しでヒントを与えすぎないようにしたりして、自分の力で問題場面を捉える活動を取り入れたい。

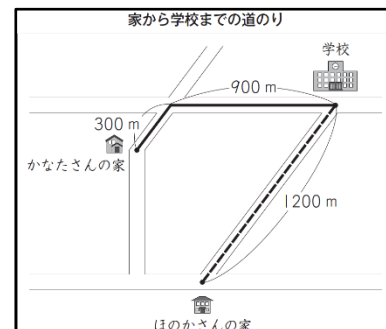
図形

○球の直径と正方形の一辺の長さが等しいと理解するには、図形を構成する要素を意識しながら実物を触る活動が効果的である。実物を使って球の直径を図る活動を十分にした上で、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形の箱を調べる活動を行うなど、実物で操作する活動を大切にしたい。また、面積や体積などは、公式などが定着してきた段階で再度具体物を操作すると、知識の定着が図れる。



変化と関係

○右の図でかなたさんは家から学校まで20分、ほのかさんは24分かかる。どちらが速いか理由を含めて書く問題では3割程度の正答率であった。「道のりが同じ」時は「かかる時間が短い方が速い」ことがわかるように書くか、両方の「速さ」を求めて比べて書く方法が考えられる。1つの問題から複数の解き方を確認できるよう、また、相手に伝わる説明ができるようにするためにも、協働的な学びを効果的に取り入れた授業の展開を行いたい。



データの活用

○日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見出したことを表現できるようにすることが重要である。折れ線グラフが表す数値の読み取りの他、傾きや重なりにも注目し、グラフのどの部分やどの数値を基に判断したかを他者にわかるように伝えることができるようにしたい。

